



# 月刊労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(22) 7207 番

96.2.5 No. 437.

# 第四回全支部活動家研修会 労働家研修会 労働者の時代認識

第四回全支部活動家研修会は、一月三〇日、二日目の講義として、「大失業時代」―歴史の転換点と労働者の課題をテーマに、埼玉大学・鎌倉孝夫教授よりマルクス経済学の立場から、資本主義の亀裂の深化、「日経連報告」の意味するもの、労働者階級の時代認識と進むべき方向性などが提起されました。

## 「ポスト冷戦」の情勢認識

社会党がガタガタになった決定的理由、従来マルクス主義を唱えていた人達がほとんど、ポスト冷戦(ソ連・東欧の崩壊)をどうとらえたらいいのかについて大混乱している。ポスト冷戦の情勢認識、その誤りとは何か。

連合や日経連はどういうとらえ方をしてきたのか。  
(一)、資本主義の勝利・世界的支配、社会主義の崩壊。  
(二)、資本主義と社会主義のイデオロギー対立、資本家と労働者の階級対立の終焉。  
(三)、グローバリゼーション、ポスターレス、国家の消滅。(四)、資本主義から社会主義・共産主義という時代認識の崩壊。  
これに対して、(一)については、ソ連や東欧の崩壊イコール、社会主義・マルクス主義の崩壊というのは間違いではない

のか。(二)について、連合などの労働運動の弱体化によって労働者の考え方が資本家の考え方に吸収されつつあるのではないのか。(三)について、資本主義というのは絶対に国家を解消できない。(四)について、はたしてそうなのか、だったらどういう時代なのか。

要するにマルクス・レーニン主義を唱え、現実にはそれとまったく異なることを強引に、マルクス・レーニン主義にもとづくものであると、支配をかためてきたのがスターリン主義という完全に社会主義を歪めてしまった体制であり、ソ連・東欧の崩壊イコール、社会主義の崩壊とはとつても言えない。

## 現実に取り返さることは何か

それでは、現実に取り返していることは何か。

資本主義の亀裂・危機の深化ということ。基軸通貨国であるアメリカが借金大国である。グローバリゼーション、ポスターレスといいつながらアメリカのNAFTA(北米自由貿易協定)やEU(ヨーロッパ連合)、日本のアジアにおける経済圏など、新しい帝国主義ブロック形成へ、「国家」「国益」が強化されている。  
多国籍企業の世界的展開によ

って、人口問題、資源・食料問題、環境破壊、人間性の解体という矛盾が噴出してきている。

日経連「新時代の日本の経営」の意味するものは、「大失業」「賃金破壊・雇用破壊」という、労働者が労働力を商品として売って生活費をかせぐことができなくなるといふこと、労働者の生存を保障できない、社会としての存立の資格がない、人間・労働者を生かさない資本主義の末期、そこまで来たということを示している。

## われわれの時代認識

資本主義の最高・最後の段階としての帝国主義。帝国主義論の基本とは、金融資本・大銀行と重工業独占体とが結合し政治経済、社会全体を支配し、国内的には、労働者、中小零細企業、農業を支配し、過剰なほどの生産力と過剰なほどの資本を蓄積する。それを基盤にして、海外投資を展開していく。植民地をうばいあい、領土の拡張・勢力圏の拡張を展開し、当然のことながら植民地争奪をめぐる世界戦争が展開される。

ソ連が崩壊し脅威がなくなれば、帝国主義の本質、各国の独占資本の利害関係の対立がズバリ、表にあらわれてくる。今日、帝国主義の末期的状況をキチッ

ととらえながら、「レーニン」帝国主義論の妥当性をもう一度認識することが必要。

現代は社会主義への歴史的過渡期であり、社会の本当の担い手である労働者が、社会の本当の主人公になること。

労働者が主人公になるといふことは、資本主義の論理、お金を追求する考えではない、労働者が人間として生きていくにあたりまえの考え方を基盤にすえ現実化すること。

「大失業時代」―歴史の転換点の展望は、人間性を開花させる社会主義の創造によって拓かれる。

労働者の課題として、もう一度、本物の社会主義をつくりなおす理論と行動が求められているということだ。(おわり)

鎌倉先生の講義

